



能登の復旧と復興を支援する視点： 6月調査報告

浜口伸明(経済産業研究所&神戸大学)



輪島朝市通地区火災現場



輪島市朝市通地区跡地



輪島朝市火災現場



輪島朝市通原風景

ココロココ・ウェブサイト <https://cocolococo.jp/31344>



輪島朝市通火災現場

輪島朝市通現状



輪島市重蔵神社社務所

輪島の朝市は重蔵神社の門前市として始まった歴史。漆器職人の食卓を支え、近年は観光化が進んでいた。

輪島市河井町





輪島市役所玄関前

主な復興施策

石川県に**復興基金**約540億円（24年5月決定・特別交付税＋宝くじ収益金） & **能登創造的復興支援交付金**500億円（25年2月決定・**24年度補正予算**）

- なりわい再生支援補助金（補助率は中堅1/2 中小・小規模事業は3/4）
 - 地盤・土壌改良、建物解体、がれき撤去、施設建替・大規模修繕、事業設備購入（パソコン・車両が認められる場合も）
 - 原状回復、原状を超える改良（機能付加・拡充）
 - 再建資金利子補給補助金（自己負担分）
- 伝統的工芸品産業支援補助金(3/4)
- 持続化補助金（小規模事業者2/3）国＋県の上乗せ
- 仮設商店街、仮設工房提供
- 特別融資（日本政策金融公庫＋県融資制度）、信用保証
- 雇用調整助成金（休業手当）、産業雇用安定助成金（出向）
- インフラ復旧（権限代行含む）、護岸・港湾整備
- 家屋等の公費解体、仮設住宅提供、災害公営住宅、自力住宅再建支援



半壊以上の家屋の解体は、豪雨、降雪などの要因で遅れていたが、県は公費解体を加速化（災害廃棄物処理の広域化と解体人員の増強など）し、予定している10月末完了の見通しが立っている。

	解体見込み棟数	解体率(%)
珠洲市	8,023	80.2
輪島市	11,267	74.7
能登町	3,951	66.6
穴水町	2,703	86.2
七尾市	5,900	57.2
志賀町	4,233	74.9
上記以外の市町	3,158	73.2

石川県公表資料 2025年5月

黒瓦が軒を連ねる歴史的な能登の街並み。
施工できる工務店は地元に限られる。スピー
ド重視で一般的な施工で再建すれば、街並み
が変わってしまうと惜しまれている。



- 七尾湾に面した和倉温泉。和倉温泉旅館協同組合21事業者中営業は5事業者のみ。解体中3事業者。来春には8事業者予定。地盤沈下、壊れた護岸の修復が必要。建設費用高騰で生業補助金を使っても再建困難
- 再開後も働き手がみつからない。外国人研修生に依存強まるか。
- 中長期的な、和倉温泉の復興のビジョンが描けていない。団体客から高単価化して個人客・インバウンド客へ。ダウンサイジング、高付加価値。個社に抱え込まない泊・食・ショッピング分離でまちづくりと一体に地域共存モデルの変革も検討されている。若い世代の新しいスタイルの事業者と融合や、周辺観光地(能登島、奥能登)との地域連携も課題。



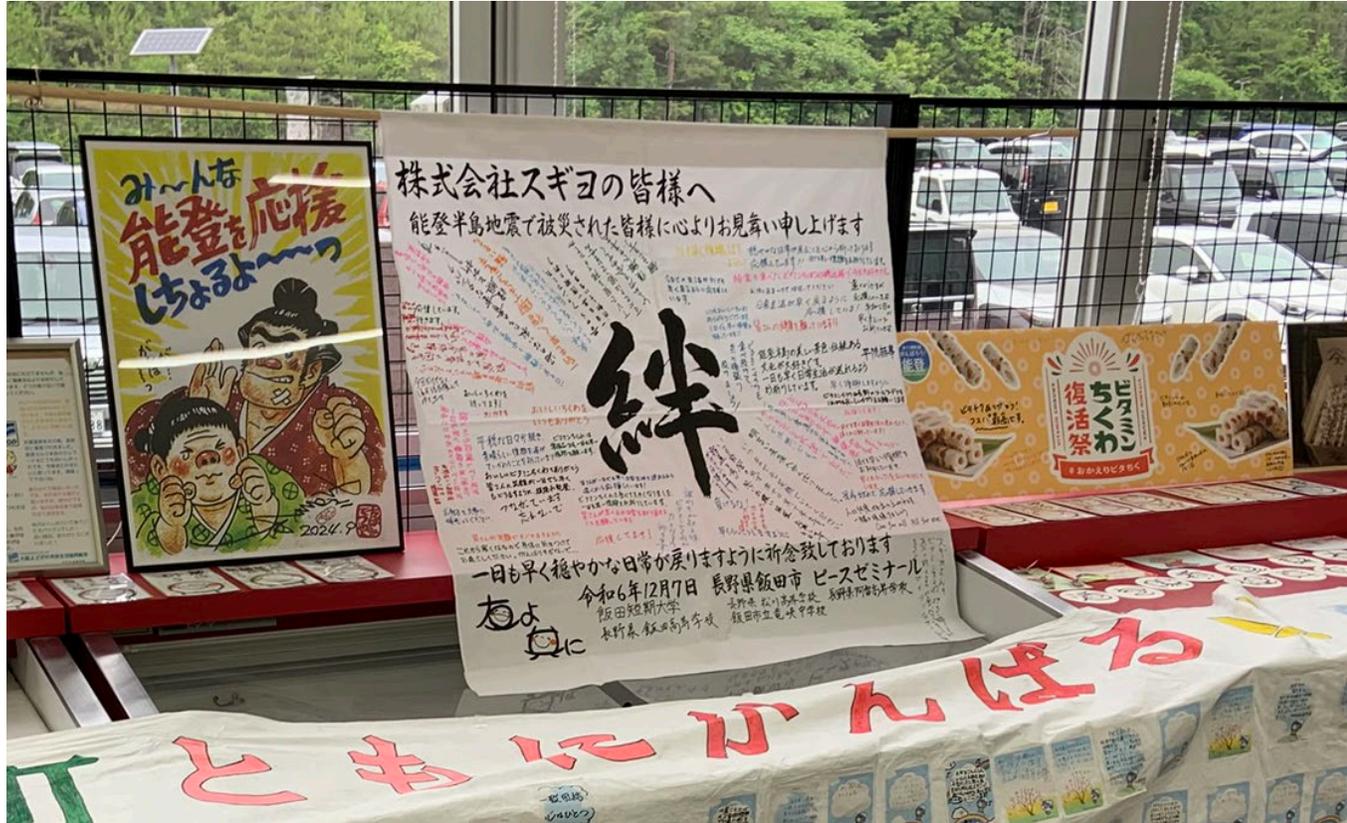


七尾市一本杉町 高澤ろうそく



七尾市和倉町 能登ミルク

一部若い世代のビジネスの再開



- 被災後、顧客維持のため生産復旧のスピードは重要だが、B to C企業では味や風味など消費者との絆で築かれた製品のブランド価値を犠牲にできない。
- 能登という立地は市場に製品を届ける点で大量生産で大企業と競争するには不利。多品種小ロット生産に商機がある。そのため流通過程を最適化するDXの必要性高い。
- デジタルで管理業務を合理化して経営判断を迅速化できれば、高い技術力・製品魅力で消費者としっかりした絆を築いた企業は能登でやっていける。



輪島市 白米千枚田



輪島市 白米千枚田

輪島塗の工程は124に細分化され、それぞれを独自の技術を持った職人が担っている。狭い範囲に集まって住宅兼アトリエを構えていた。現在多くの職人が仮設工房提供の支援を受けている。

後継者となる人材育成が急務だが、徒弟制で育った職人は、養成所で集団的に職業訓練を受けた若者は、自分たちとは考え方が違ってくると感じている。

弘一

山崎 弘一

輪島塗会館 仮設工房 3 蔀絵



七浦 孝志

輪島漆芸美術館 漆の里広場 17 塗り

七浦 孝志

輪島漆芸美術館 漆の里広場 17 塗り



いち早く復興計画を整備した志賀町は企業立地を復興の推進力とする

- 能登中核工業団地活用。あらたに産業用地の造成（IC付近）も計画
- 災害に強い電源オフグリッド、自立型の水循環システムも念頭
- 人手不足は懸念。就業マッチングも課題。女性、ホワイトカラーの雇用受け皿小さい。観光にも期待。



かえる、志賀町

人が帰る 元に戻る 町を変える

概要版

志賀町 令和6年 能登半島地震 復興計画

工業団地について About

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

環境に配慮した社会へ

脱炭素社会の実現を目指し、私たちができること

RE100
RE100 (再生可能エネルギー100%電力) は今後の企業活動において必須項目であると考え、企業が自らの事業の使用電力を100%再生で賄うことを目指し、電力会社の協力のもと企業の皆様の要望に応えられるよう努力して参ります。

SDGs - 持続可能な開発目標
能登中核工業団地はSDGsの取組みとして、目標7、8、9、12の開発目標を掲げ、企業の皆様と共に歩んで参ります。

- 目標7 エネルギー**
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する
- 目標8 経済成長と雇用**
包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用 (ディーセント・ワーク) を促進する
- 目標9 インフラ、産業化、イノベーション**
強靱 (レジリエント) なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
- 目標12 持続可能な消費と生産**
持続可能な消費生産形態を確保する

能登中核工業団地 5つの特徴

企業紹介 Company introduction



土地活用凡例

- 工場用地
- 分譲地
- 公益利便施設用地
- 緑地
- 道路
- 調整池

新区画公募価格 <一筆全体の価格>

区画名	K-2
有効面積 (㎡)	27,819
法・緑地面積 (㎡)	4,201
譲渡面積 (㎡)	32,020
公募価格	単価 (円/㎡) 5,930
	(円) 189,878,600

※令和3年現在

K-2を3分割した場合の参考価格

区画名	a	b	c
有効面積 (㎡)	10,657.28	8,044.23	9,118.09
法・緑地面積 (㎡)	1,666.42	1,933.40	601.44
譲渡面積 (㎡)	12,323.70	9,977.63	9,719.53
公募価格	単価 (円/㎡) 6,230	5,460	6,110
	(円) 76,776,651	54,477,860	59,386,328

※分割面積については変更可能

進出企業一覧

- ① 加賀木材 (株) のと里山工場
- ② 北陸エナジス (株)
- ③ (株) ケースリー北陸工場
- ④ 日機工業 (株)
- ⑤ エンジニアリング 志賀工場
- ⑥ 北陸日産電機 (株)

なぜ、1年半たっても
復興がすすまないのか

被災地共通の要因

急激な人口流出。復興のために「なりわい再生」と言うが、そもそも人がいないのでなりわいが成り立たない。

高齢化と後継者不足のため「すまい」と「なりわい」の再建を躊躇。

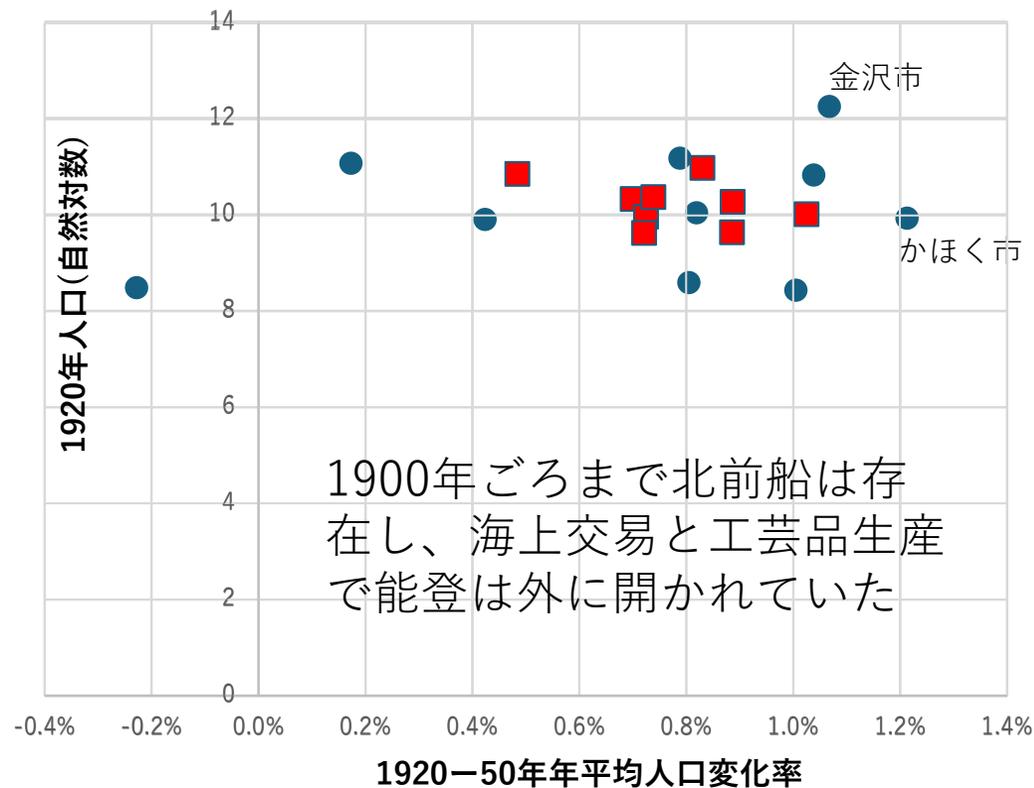
City	2025年1月人口	2015-24年変化率	2024年変化率
石川県	1,096,721	-0.50%	-1.00%
金沢市	455,394	-0.20%	-0.40%
白山市	109,326	0.00%	-0.10%
小松市	103,845	-0.30%	-0.60%
加賀市	59,390	-1.30%	-1.40%
野々市市	58,377	0.40%	0.80%
能美市	48,309	-0.20%	0.00%
七尾市	45,421	-1.60%	-3.80%
津幡町	36,911	0.00%	0.20%
かほく市	35,368	0.30%	0.50%
内灘町	25,775	-0.30%	-1.40%
輪島市	19,711	-2.50%	-10.00%
羽咋市	18,967	-1.40%	-1.40%
志賀町	16,578	-2.00%	-3.80%
中能登町	15,404	-1.30%	-1.90%
能登町	13,427	-2.30%	-6.00%
宝達志水町	11,119	-1.70%	-1.70%
珠洲市	10,523	-2.50%	-10.20%
穴水町	6,874	-2.00%	-6.00%
川北町	6,002	-0.50%	-1.00%

黄色が能登地方

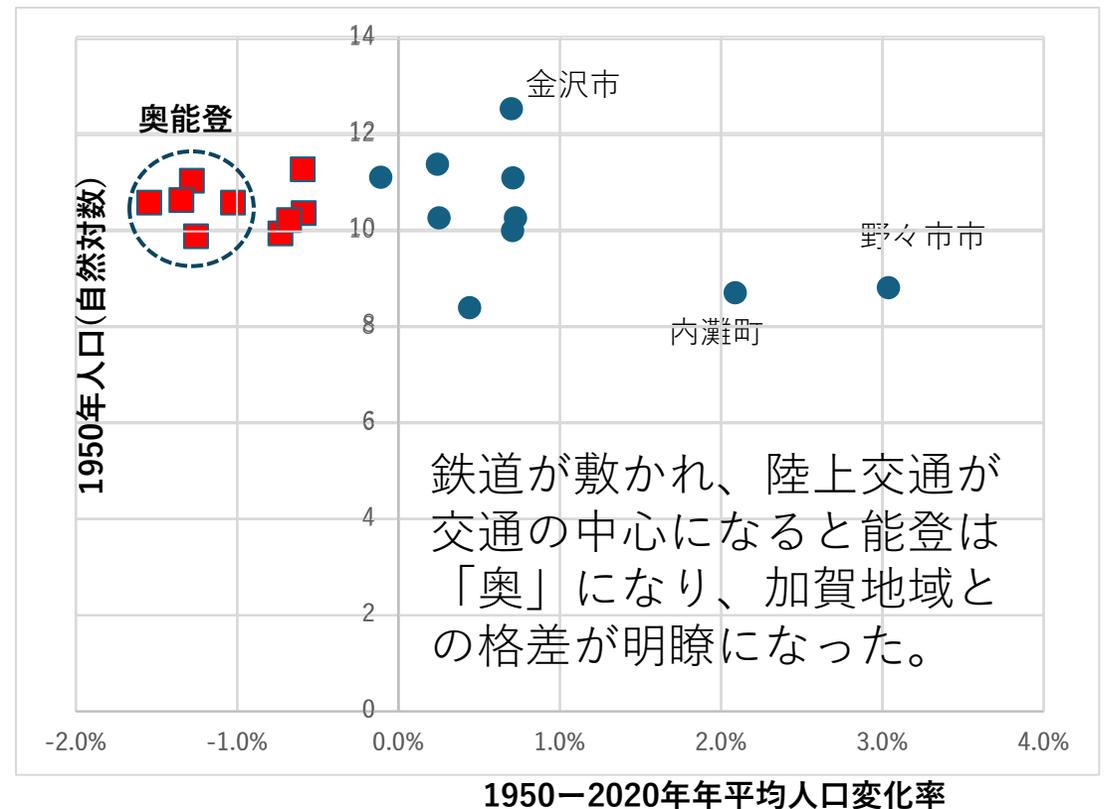


1950年が能登の人口ピーク、加賀は2020年まで人口が増えていた

1920-1950 石川県市町人口変化



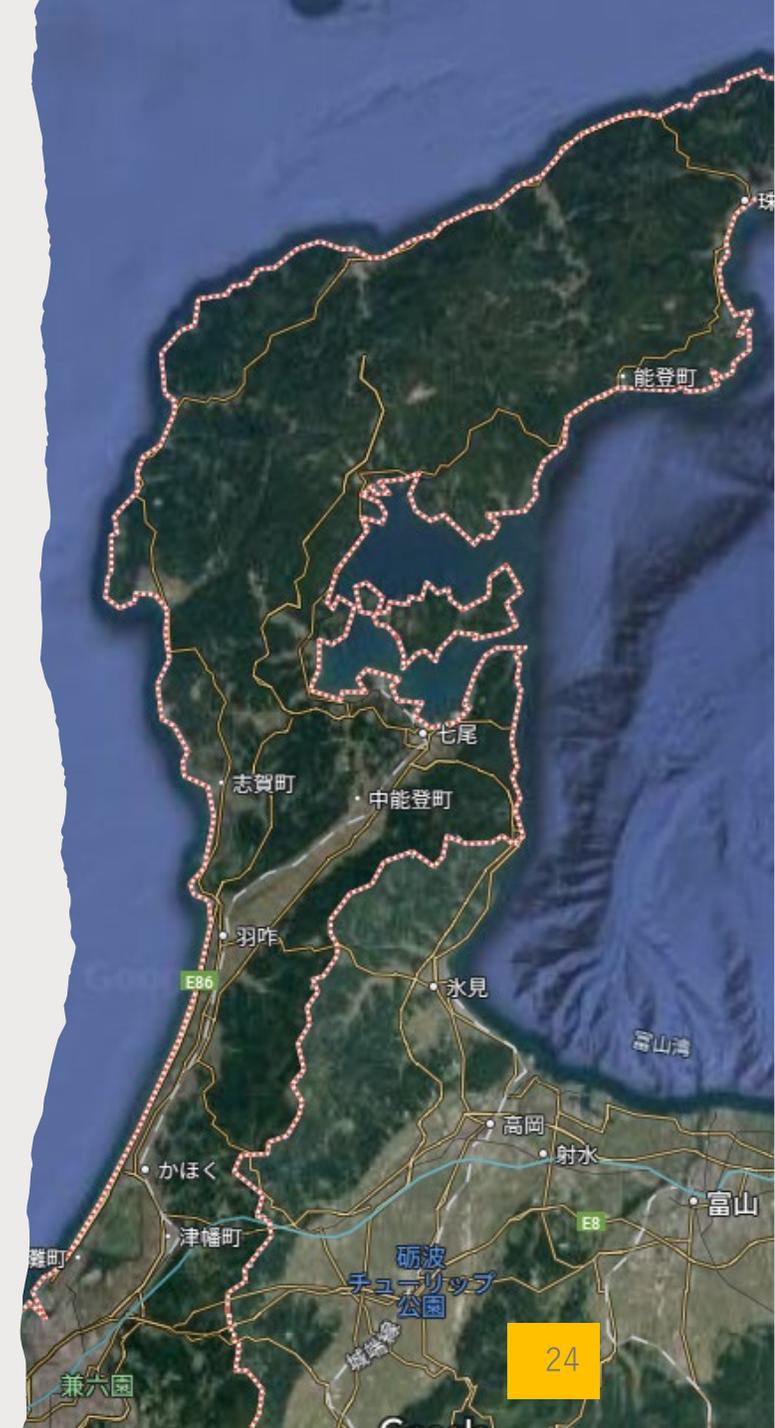
1950-2020 石川県市町人口変化



●加賀地域 ■能登地域

能登固有の要因

- 三方を海に囲まれ、平地に恵まれず、水資源が乏しい（半島振興法）、産業振興に不利な半島の特質。
- 多くが山地。北側は海成段丘の海岸が隆起
- 道路網の幹ではなく枝であり（目的がなければ訪れない）、道路密度が低い（緊急時の代替道路が限られている）
- 復興の人員が足りない。遠くから集めなければならないので高コスト。工事入札が不調・不落になることも。
- 固有の文化が残されている。



人口減少を前提にダウンサイズ、集約化して「より良くする再建」をめざす地域の内発的な試行

【教育環境を整えて人口減少に歯止め】 輪島・珠洲から避難で3割少なくなった小中学校生徒。壊れた学校再建とともに議論進む学校統合。県は奥能登の県立高校維持の方針。教育の内容をどう高めるか。登下校の交通も課題。

【伝統産業を発展的に継承する】 輪島塗は日本全体の人口減少、生活スタイルの変化で需要減少傾向。被災をきっかけに離れる職人も。若手人材育成施設の新設や海外市場の開拓・新たな商品開発を検討。低価格帯の産地との競合も課題。かつては加賀藩御細工所。

【外需獲得に新たなビジネスモデルを確立する】 和倉温泉は旅行エージェントを介した国内団体旅行客をターゲットにした大型施設のビジネスモデルからの転換が課題。温泉地の食・泊分業。他の観光地との連携。個人旅行者、インバウンドに訴求する価値の創出。

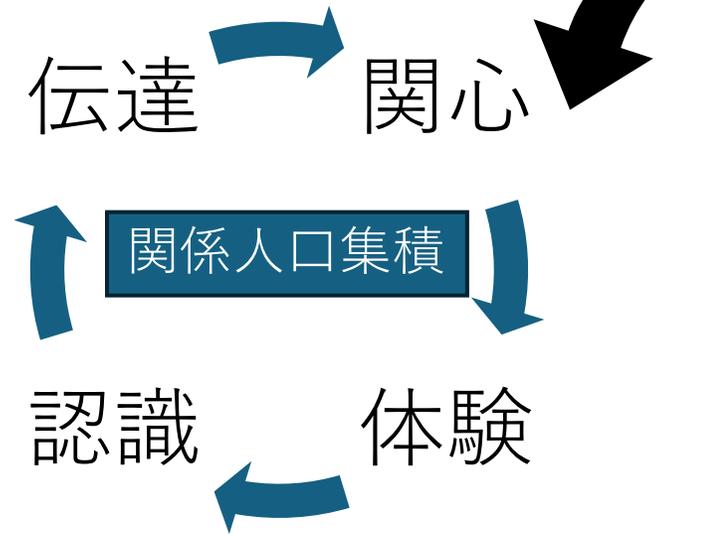
【企業を誘致して質の高い雇用を】 産業立地推進において能登で競争力を発揮する産業特性を明確化し、ターゲットを定めた用地セールスの必要。



21世紀の復興政策*

関係人口の集積 を作り出す

*従来の復興政策は外部資源を動員して住民を元に戻すことが中心



情報がバズるのは一瞬。リアルな場の認識を共有して一緒に育て上げる関係人口を集積させ、経済活動につなげる工夫。能登にはそのための資源がたくさんある。それを守り育てようとする地域の試みに寄り添う息の長い支援が必要。

能登をどう認識するか

- とにかく話題にする。有名人の発信。アニメ・ドラマの「聖地」。SNS。
- **能登の認識**を共有し一緒に育て上げる
 - 羽咋市・千里浜（ちりはま）なぎさドライブウェイの砂浜を車で走る（日本でここだけ）。夕陽。
 - 輪島塗のカップでコーヒーを飲む
 - 白米千枚田で田植えをする。
 - 各地のキリコ（奉灯）祭りに参加する。
 - 能登の里山里海（世界農業遺産）を自転車でめぐり、海成段丘を観察して「地震で増えた国土」を理解する。
 - 長谷川等伯の「松林図屏風」が生まれた七尾湾の朝霧を体験する。
 - 輪島の朝市、和倉温泉の「日本一のおもてなし」を復活させる

